

第2回 諮問検討小委員会 会議録

平成27年12月18日(木)

13:00～15:00

○出席者 公運審委員

山田 治子(東清)、青木 健(岩根)、古藤田 憲之(鎌足)、澤邊 賢司(岩根西)
松尾 玲子(富来田)、鶴岡 俊之(桜井)、本多 二三代(文化協会)

事務局

原(清見台)、渡邊・星野・栗本(中央)、松本(八幡台)

○記録 栗本(中央)

1 第1回諮問検討小委員会の概要報告

2 諮問事項の検討

「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」

(1)公民館をとりまく地域の現状と課題

(2)教育機関としての公民館の今日的役割

(3)これからの公民館事業に求められるもの

(4)充実した公民館活動を推進していくために

青木 まず(1)公民館をとりまく地域の現状と課題について整理をしたが、補足や追加事項等あります。ほとんどこれで課題などは出し切っていると考えてよろしいか。特に重要と考えられるものなどはございますか。

確認ですが、この(1)公民館をとりまく地域の現状と課題について(概要整理)という資料で、箇条書きにされたものを答申にするわけではないですね。

星野 答申を作るときには文章にする。文章にするときには表現なども含めて検討することになる。とりあえず、今日の資料では、前回出された意見をまとめたものをお渡しした。今日の定例会で他の委員や館長から意見を求め、それを付け加えることもできる。また前回欠席した方からもそれぞれの地域の課題をお聞かせ願いたい。

青木 それでは、概要を整理した資料の上から一つ一つ検討していきます。請西地区の人口増加について。請西地区の公民館はどこが該当するのか。複数にまたがっていると思うが、文京公民館と清見台公民館でしょうか。

山田 桜井公民館も入るのですか。

原 桜井公民館も入ります。請西地区は、二小と請西小学校、真舟小も一部入る。中学校では、二中と太田中。公民館は、文京公民館と桜井公民館、そして一部清見台公民館も入る。請西地区はかなり入り組んでいる。

青木 では人口の高齢化と利用団体(やや増加傾向)との関連性についてはどうか。

古藤田 地域づくりでは、自治会と公民館の関わりは重要だと思うが、人口が急に増えたところでは、自治会などがきちんと組織されていないという話を聞く。たとえば請西南地区など、

公民館がどう取り組むかがこれから重要になってくる。どの公民館を利用しているかも分からない。

星野 地域で出しているお知らせや公民館だよりなどは、自治会などがないと、区長さんを通して配布できない。そうすると情報も届かない。学校のお便りなどは各家庭に配布されると思うが、木更津市の広報以外の地域の出版物やお便りは配布する手段がない。空白地帯になっている。

青木 公民館とすれば対象エリアは各中学校区なので、請西南も管轄区域としては、対象になっているんですね。

星野 真舟小の請西南地区は二中学区。二中学区のエリアは文京公民館と桜井公民館がカバーしている。文京公民館と桜井公民館のすみわけも曖昧なところがある。基本的には文京公民館が二中学区全体の公民館という位置づけにはなっている。真舟地区、請西地区がどちらに所属するかは現段階では、明らかではない。区長会が学区のエリアと同じではないので、エリアの重複はある。補足ですが、概要を整理した資料の一番上、人口増加地域における新旧住民同士の交流やかかわり方に関する課題というのは、例えば大久保地区や金田地区など新旧の住民同士の結びつきや今度どのように折り合いのつけるかという意味であり、エリアの問題とはまた違う課題である。

古藤田 重複は良いが、空白地帯は良くない。

星野 市としては、自治会の組織化を促したり、促進したりしているが、組織を作るのは地元の住民が自主的に行う必要がある。

青木 結局、だれが先頭に立ってやるのかというのが難しい。

山田 ほたる野も自治会を組織化するまでが大変だったようだ。請西南も誰かが立ち上がらない限りはなかなか難しいと思う。

星野 市政協力員を通じて広報などを配布している。市政協力員がいない地区は困る。公民館の情報が伝わらず、公民館に来てもらうことも難しくなる。

山田 公民館だよりを学校などに直接もっていくことはできないのか。

星野 全戸配布あるいは回覧で地域に配布しているので、保護者へ配布してもらうために学校に直接もっていくことはしていない。ただし、地域の資料として学校へは回覧で数部配っている。

原 公民館のHPはかなり細かく掲載しているところもある。公民館だよりを掲載している館もある。直接配布しなくても、公民館の行事、事業は閲覧することができる。ただ、全ての人インターネットを使用できる環境にあるわけではないので、それも一つの課題である。社会教育委員会議では、3年前の諮問答申の中で、金田や請西地区に新しい施設を作るべきだという意見が出ていた。

青木 2番目の人口の高齢化と利用団体(やや増加傾向)についてはどうか。みなさんの地域では高齢化しているか。

山田 松尾さんの地域はどちらかというとな新しい住民よりもともと地元にいる人が多いのではないか。

松尾 去年、新しくスポーツ吹矢のサークルができた。結構人数も多い。週1だとその日に都合が悪く、来れない人もいて、週2回くらい公民館を利用しているようだ。年齢的にはシニ

ア世代が多い。他には折り紙関係のサークルもできたようだ。やはりサークル数はプラスになっていると思う。一方で、詩吟などこれまで活動していたサークルの会員が減り、2名になってしまったサークルもあると聞いた。サークルのPRや口コミで人数を増やすことも大切。

青木 スポーツ吹矢は、体育館のような場所がないとできない。文化祭を視察したときに体験したが、広いところでないと危ない。

松尾 スポーツ吹矢に興味のある人に、スポーツ吹矢はルールも厳しいので生半可な気持ちではやってほしくない、昇級試験もある、というような話をすると、離れていく人もいようだ。

青木 3番目の、団体の役員・後継者不足についてはどうか。そのような問題を抱えている地域はありますか。

本多 喜んで団体の役員を長くやっている方もいれば、そうじゃない人もいる。

山田 イベントなどに参加するのは良いが、準備するほうにまわるのは大変だ、と言う人も多いと思う。

星野 一中学区の婦人会は、新しい会員の加入はほとんどなく、今いる人で維持するのが精一杯の状況にあり、代表者を代えたくても、今いる人の中では交代が難しいようだ。サークルでは代表を1年で交代すると決めているところもある。

渡邊 公民館を取り巻く地域の現状を見たときに、日本全体としてみると人口は減少傾向だが、木更津市は人口が増加している地域がある。しかし、木更津市の中でも減少している地域もある。市全体で見ると高齢化している。団体については、老人クラブや子ども会の会員数、団体数が減少傾向で、さらに、老人クラブ、子ども会の連絡会に加入するところも少なくなっている。地域の現状に立脚して課題を整理していき、どういう課題が見えてくるのか。前回の内容をうまく文章化していく作業が必要になる。今日は(2)教育機関としての公民館の今日的役割までいくのか。

青木 公民館をとりまく地域の現状と課題について整理しながらまとめていくという感じ。それが終わったら、(2)教育機関としての公民館の今日的役割を話し合う。全体で抜けている課題はないか。

星野 今まで出た課題の中でポイントとなるのは、一つは、地域づくりをする上で公民館と町内会などのかかわりは非常に大切だが、市政協力員がいなかったり、自治会がない地域があるということ。もう一つは、高齢化などで、団体の役員のみ手がいらない、若い世代が入ってこないということ。エリアの問題はどうするか。中学校区に一公民館という原則だが、小学校区と中学校区が違うために、小学校によっては二つの中学校の対象区域になっている地区もあり、そうすると二つの公民館のエリアに所属する小学校があったりする。また市の行政区(区長会)のエリアと中学校区が微妙にずれていて、二つの公民館が関わる区もある。小中学校の統廃合との問題も絡み、非常に難しい課題。それを答申で触れるかどうか。

本多 触れた方が良いと思う。

星野 触れるとしたら何が課題かという理由付けをしなければならない。ただ現状をのべるだけでなく、事業の課題と結びつける必要がある。エリアの問題により、困難が生じているこ

とがあり解決すべき課題であると、明確にしなければならない。

古藤田 東清公民館はほたる野の地域も含まれるが、人口の多くなっているところが対象の公民館と離れている。

山田 清見台東3丁目は、学区は東清公民館だが、道を一本渡れば清見台公民館というところがあり、どうしてダメなのか、気になさっている方がおられる。足がないと公民館に行けないから、利用者を増やすためにも近い方が良いとは思う。また利用者の増加に関して、子どもチャレンジ教室では、中学生のボランティアがお手伝いして下さったことが契機となって、公民館とのふれあいが生まれ、さらに文化祭を通してPTAの方も参加、協力して下さる。公民館を若い世代を引き込んだふれあいの場にはできないかな、と思う。

原 たとえば公民館の管理運営規則では中学校区になっているけれども、公民館が学区の端の方にある清見台公民館は、通りを隔てればほたる野と隣接している。しかし、ほたる野は東清公民館の対象となる。臨機応変に対応している現状。答申の中で、生活するエリアと対象の公民館とが離れている場合に、考慮するように望むということも載せても良い。

渡邊 土地開発によって、だいぶエリアが変わっている。以前は波岡と八幡台は離れており、一方は大久保、一方は八幡台だった。間の羽鳥野が開発されたことで、波岡と八幡台がつながった。現在、羽鳥野は八幡台小学校。全体が八幡台に行っているが、羽鳥野は波岡公民館のすぐ近くのところまでである。波岡公民館に行きたいという人も出てくるかもしれない。それと同じことがほたる野でも起こっているのだろう。ほたる野が開発される前は南清小の裏手は全部山だった。東清公民館のエリアと清見台公民館のエリアは分断されていた。開発によって線引きが変わったりすると、現状と規則とが合致しなくなってくる。

山田 ほたる野は人口規模が大きくなっているが、その割に東清公民館は規模が小さいので、使いたくても思うように使えず、使い方を考えていかなければならない。また都会から越して来た若い世代の感覚と、以前から住んでいた人の感覚にずれがあるように思う。事業の申込み方法も今までどおりでよいのか再考すべき時期なのかもしれない。

青木 インターネットで申込みをできるにすると、遠くの地域の人でも利用できるようになり、近くに住む人が利用しにくくなるかもしれない。

星野 事業の申込みに関しては、地域で制限していることもある。一方、サークルの会場利用は全市的に行われている。中央公民館だけでなく、桜井公民館、中郷公民館、鎌足公民館、そして金田公民館ですらも、全市的になりつつある。例えば街づくり協議会などは、中学校区単位で作ろうとしているが、地域づくりと公民館を考え区割りをすると、エリアで食い違いがでている場合もあるので、どのように整理すべきなのか、単純にはいかない。

山田 サークルが全市的になってきたこともあり、「なぜあの人たちはあちらの公民館があるのに、こちらに来ているのか」といった声も聞いたことがある。新しくサークルを立ち上げたくても、以前からその曜日、その時間に利用している人がいると、新しく入りにくいということもあるようだ。

星野 先ほどの話に戻りますが、若い人が利用しないのはなぜか、ということも課題の一つ。また、公民館が中学校区の一つあっても、立地条件が住民の日常生活における利用に適しているのかということも課題。

渡邊 公民館の設置や公民館ができた経緯なども考慮する必要がある。かつての文部省の公民館

の設置及び運営に関する基準の中では、町村においては小学校区単位、市においては中学校区単位を対象区としましょう、となっていた。その基準を受け、木更津は中学校区の一つ、というスタンスをとった。ところが、土地開発の影響や、学区の端に建設されたことなどから、隣のエリアと隣接している公民館もある。

星野 公民館の設置基準は平成 15 年に改正されている。当初は町村においては小学校区単位、市においては中学校区単位が望ましいという基準であったが、市町村合併や、学校の統廃合などが原因で、小学校区、中学校区という単位が崩れてしまった。また、自動車が普及したことで、移動範囲が広がり、遠くの公民館へ行けるようになった。現在の設置基準では、「公民館活動の効果を高めるため、人口密度、地形、交通条件、日常生活圏、社会教育関係団体の活動状況等を勘案して、当該市町村の区域内において、公民館の事業の主たる対象となる区域を定めるものとする」と定められた。小学校区、中学校区という基準そのものがなくなった。

渡邊 かつては、公民館の設備など、施設に関する数量的、具体的な基準があったが、現在では、機能や運営に関する基準へ変更になった。数量的な面から機能面への基準に改正された。それにより、公民館の弾力的な運営ができるようになった。

星野 公民館の利用は広域に広がっていったが、地域づくりは広域ではなかなか難しい。自治会などがベースにならざるを得ない。広範囲なエリアを対象にした活動は困難。エリアをどこで線引きするかが大きな課題。

青木 (2)教育機関としての今日的役割についてはどうですか。

星野 資料でお配りした、新しい地域づくりに向けた木更津市立公民館の整備計画について(答申)が参考になる。また前回の(1)で出されたものから現状と課題を整理し、それらを踏まえた公民館の今日的役割をまとめた資料をご覧ください。

青木 ではこれに基づいて今後の方策や新たな取り組みを考えて生きたいと思います。

鶴岡 これまでの会議や資料の中にもありますが、若者や青年、働き盛りの世代を公民館活動にいかにか巻き込むかが、重要な課題だと思います。若者が豊かな人生を歩み、地元で生きていくためにも公民館を使ってもらうことが大切である一方、自治会がない地域があるという問題もある。そういう地域があってはいけないと思う。また、学ぶ意欲のある若者は結構いると思う。そういう若者に学んでもらう機会の一つとして、例えば地域の先輩に学ぶ「自分史」や、地域の大人の生の声を聞くような機会を設けることが大切なのではないか。そうすることで生きる力や地域で生きていく実感、一人の人間としてどのように生きていくかを考えるきっかけにつながりうる。地域の大人と若者と交流する機会があれば良いなと思う。ただ家と会社の往復では、公民館のことを知る機会すらない。いかに若者の興味を惹く事業にするかが重要。資格取得的な内容だと人は集まるかもしれないが、それでは公民館の役割としては適切ではない。スキルアップ的な内容ではなく、生き方や将来の考え方、希望、安心など、生きる目的につながるような内容を伝えたい。学校の授業の一環ではなく、気軽に地域の大人の話を継続して聞けたら良い。

古藤田 青年団活動ないし青年会の活動が衰退した原因はわからないが、それらの団体は地域の中で非常に大きな役割を果たしていた。青年たちが自主的に活動しようというときに、手助けをしたり、コーディネートをするような役割が公民館に求められている。具体的にどの

ようにするかは難しいと思うが、可能性はあると思う。

鶴岡 消防団は各地域にあって、仕事をしながら地域のために活動している。あとは PTA などもある。そのような団体と協力することで若い世代を公民館へ引き込めると思う。

古藤田 消防団、PTA は地域で活動している。組織的な繋がりができれば突破口になるかもしれない。

鶴岡 あとは地域の大人が協力してくれるかが問題。

青木 地域に青年の団体ができれば、安泰だと思う。

山田 青少年相談員などの若手から見た公民館への思いを引き出して、ヒントにならないかな、と思っている。こちらからお願いするだけでなく、代表の方たちに出てきてもらって、何を求めているか、どのような要望があるのかを聞き出せたら、何かのきっかけにはなると思う。公民館に足を運んでくださる若い人に聞いてみたい。地域の若者から見た公民館像を知りたい。

澤邊 小学校中学校くらいまでは、何かと公民館に足を運ぶ行事がある。それから先がほとんど来なくなってしまう。中学校以降の高校生や若い世代へ、青少年相談員、PTA などの協力を得ながら、働きかけができれば良い。

青木 ロビーで気軽に話し合えるような場所があれば良いんでしょうけれど。

鶴岡 東清公民館の文化祭で、中学生の活躍が素晴らしかった。地域に出てボランティアをしてくれる中学生をいかに育てるかが問題。中学生は部活が生活の大半を占めている。例えば部活単位で協力してもらうのも良いかもしれない。

澤邊 その例として、木更津高校にジャグリング部があって、老人ホームなどで活動し、喜ばれている。色々な場面で引っ張りだこのようだ。文京公民館でも披露してもらったこともある。

青木 これまで出てきた内容のほかに、定例会で他の委員の方に話を聞きたい。小委員会としては、時間も迫ってきているので、ここまでにしたい。

星野 それでは、このあとの定例会でこれまでの内容を説明していただきたい。現状と課題については絞られてきた。公民館の今日的役割については材料提供のような形で話をさせていただき、次回も継続して話を続けていく。そしてこれまでの話を文章にする。

青木 文章になったものを、場合によっては他の委員の方に郵送して事前に目を通してもらうことも必要になってくる。では第 2 回諮問検討小委員会を終わります。

3 公運審第 3 回定例会の進め方

4 第 3 回諮問検討小委員会について

5 次回以降のスケジュール、その他